

セミナーテーマ：「育てにくい子」の心と支援

コース① 児童期にある不安の強い子どもの心の育ちを支える

相澤直樹 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



“育てにくい子”の中には不安や心配の強い子どもがいます。幼い頃からいろいろな刺激に敏感で、時にひどい癇癪を示したりします。見知らぬ人や場所に大変臆病で、人ごみや集団がとくに苦手です。勉強でもちょっとでも分からないことがあると、不機嫌になってしようとしません。それでいて家の中では内弁慶。“なぜそんなこともできないの？！”と時に親を驚かせたりもしますが、そこにはきちんとした理由があります。そのような子どもたちの心の内側を少しのぞいてみませんか？子どもを理解し支えるヒントが隠されているかもしれません。

コース② 子育ての困り感を乗り越える第一歩～褒め上手になろう～

山根隆宏 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



「子どもの育ちが心配」「なにか育てにくい…」そんな子育ての困り感を持つ小学生までの親御さん向けに、日々の子育てを振り返る機会としたいと思います。子どもの育てにくさの背景には、時としてその子のもつ様々な発達上の特徴が関係していることがあります。子どもの特徴を踏まえながら、子どもの困る行動をどう捉え、どう関わればよいのかをお話しします。ペアレントトレーニングやアタッチメントの考え方をもとに、褒め方や声かけの仕方、子どもの困った行動のとらえ方について実際に考えてみましょう。

コース③ “育てにくさ”“育てやすさ”を呈する子どもの成長過程と親・教師の役割

吉田圭吾 教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



小・中学校において“育てにくい”子どもに手を焼くことが多い。しかし親や教師が“育てにくさ”を感じている時ほど、子どものことを親や教師が心から心配し、積極的に関わる必要性に迫られる。言い換えれば、“育てにくさ”を呈している時期にこそ、子どもは大人の関わりを得て“育つ”ということができる。逆に言えば、“育てやすい”時期には子どもは育たないのかもしれない。発達の節目における“育てにくさ”について考え、そのような子どもに関わる時のコツについて当日は、さまざまな事例に基づき説明すると共に、親や教師自身も自分の人生における“育てにくさ”“育てやすさ”について振り返ってほしいと思う。

コース④ 幼児期の“育てにくさ”を成長の兆しに！～視点を広げて、楽しいかわり～

河崎 佳子 教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



乳幼児期の子どもの“育てにくさ”について、親子のかかわりと愛着形成という視点からお話しします。泣いてばかりの赤ちゃんにママはお手上げ…。「いや～」「じぶんでする！」「あっちいって～」の反抗に、ママの怒りは爆発！心身ともに憔悴…。今回は、「赤ちゃん・幼児さんの心にふきだしをつけたら？」をテーマに、どうしてほしいの？を探求して、かわりのヒントを見つけたいと思います。追いかけてすぎず、突き放さず、子どもたちが無理なく自立に向けて成長していく姿を見守りたいですね。お子さま連れのご参加も歓迎します。

参加者へのお願い

- 会場には、子どもたちを遊ばせるスペースはありますが、託児はおこないません。お子様については、各保護者の方が責任をもって見ていただくようお願い致します。
- 各コース定員（先着 25 名）に達した場合には、受付を終了いたします。受講可能な方には、追ってメールにてご連絡差し上げます。また、キャンセルの場合にはできるだけ早めにご連絡ください。

